

厳選良問

～ シチュエーションを想像すると正解が分かる問題 ～

分野	サービス系分野	出典	社会福祉士試験(第30回試験-問題79)
----	---------	----	----------------------

==== 問題 =====

問題 任意後見契約に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 任意後見契約は、任意後見契約の締結によって直ちに効力が生じる。
- 2 任意後見契約の締結は、法務局において行う必要がある。
- 3 任意後見契約の解除は、任意後見監督人の選任後も、公証人の認証を受けた書面によってできる。
- 4 任意後見人と本人との利益が相反する場合は、特別代理人を選任する必要がある。
- 5 任意後見人の配偶者であることは、任意後見監督人の欠格事由に該当する。

==== ポイント&解答 =====

資格別試験対策

社会福祉士	精神保健福祉士	介護福祉士	介護支援専門員	保育士
★★★	★★★	★★	★★	★★

注) ★★★…必ず学習!! ★★…できれば学習! ★…余裕があれば確認 ×…学習しなくてOK

試験対策ポイント解説

成年後見制度のうち、任意後見制度に限定した問題です。任意後見制度は、どの福祉資格試験でも出題されており、選択肢1と選択肢2の内容はよく見かけますね。

個々に見ていくと、小難しいことが記述されていて「どの部分に誤りがあるか」ということを明確に解答することは難しいかもしれませんが、単純に正答を見つけるのは意外と簡単です。

まずは、各選択肢の内容をイメージしてみましょう。選択肢1であれば契約締結直後に任意後見が開始されるということになるので、本人は認知症などがある状態で契約を締結しているという不自然さがみられます。こんな感じで見えていくと、選択肢2は単純に法務局というのが全国にいくつあるのか?という疑問が生じるなど、疑問や不自然さなどがみられます。このような疑問や不自然さなどがみられれば「×」と捉えて良いでしょう。

今回正解の選択肢5も、この内容が「×」と仮定してシチュエーションを想像すると、「配偶者が監督人って、なんだか任意後見人の職務をやりにくいかも」や「配偶者は公正に判断を下さるのか」といった疑問や不自然さがみられるので、「○」の可能性が高いと判断できます。

解答 5

